

# 公民的分野 年間学習指導計画・評価計画（案）

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第1章 私たちの暮らしと現代社会	◇はじめに いまを生きるということ 1	○東日本大震災の発生によって、私たちの暮らしや考え方に生じたさまざまな変化や影響を振り返りながら、現在と未来をどのように生きていったらよいかを考える。	被災地への支援から学んだ世界各国との「つながり」をふまえ、平和で豊かな未来をつくるために、自分たちに何ができるのか、いまをどのように生きていくべきかを考えようとしている。	震災からの復興に取り組んだ中学生の姿など、過去のできごとや世界のできごとをもとに、平和で豊かな未来をつくっていくために、「いま」をとらえ「未来」について考察している。	東日本大震災の各種資料（映像・写真・統計資料・書籍・新聞・インターネット等）をもとに、震災後の社会の変化や暮らしへの影響について調べ、まとめている。	東日本大震災からの復興にあたり、中学生が取り組んできたこと、そして現在も尽力していることを知識として身につけている。また、平和で豊かな未来をつくっていくために、いまをどのように生きていくべきかを考えることの大切さを理解している。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第1節 私たちが生きる現代社会 2	○現代日本の特色として、グローバル化、情報化、少子高齢化などがみられることを理解する。  ○現代日本の特色が、政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気づく。	グローバル化、情報化、少子高齢化などの、現代日本の特色に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。また、これまでの日本や世界のできごとを振り返りながら、未来に向けて自分たちに何ができるのかを考えようとしている。	グローバル化、情報化、少子高齢化などが政治、経済、国際関係に影響を与えていることについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	現代日本の特色に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、調べたことをまとめている。	現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などがあることを理解し、その知識を身につけている。また、日本と世界との結びつきが強まる中で、情報化の進展が果たしている役割を理解し、自分たちが情報を伝え合うことや、世界とつながることの意味を理解している。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
	①つながる私たちと世界 1	○グローバル化の観点から、自分たちの暮らしや世界とのつながりについて、具体的な事例を通して理解する。  ○情報化社会において、自分たちが情報を伝え合うことや世界とつながることの意味に気づき、情報との接し方や活用の仕方について考える。	グローバル化や情報化が進む現代社会に対する関心を高め、自分たちの暮らしと世界とのつながりについて意欲的に追究しようとしている。	グローバル化やインターネットの発達などによる情報化がもたらす長所と短所を明らかにするとともに、世界とつながることの意味や、情報との接し方や活用の仕方について考察している。	グローバル化や情報化が私たちの暮らしにもたらす影響や変化について、さまざまな統計資料をもとに、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。	グローバル化がもたらす影響や、自分たちの暮らしが世界とつながることの意味に気づくとともに、情報化社会がもたらすさまざまな変化について理解している。	
②世代を超えたつながりへ 1	○石油危機（1973年）以降の社会の変化と、少子化や核家族化といった家族形態の変化について理解する。  ○少子高齢社会の課題に気づき、国や地方公共団体の対策と、自分たちができることについて考える。	少子高齢社会が抱える課題に対して、国や地方公共団体が進めるべき対策や、自分たちができることについて追究しようとしている。	少子高齢化の原因について、社会の変化や家族形態の変化と関連づけながら考察している。	世帯の構成割合の変化のグラフや、人口ピラミッド、新聞記事などさまざまな資料から、少子高齢社会が抱える課題を読み取っている。	少子高齢社会の特色について理解し、少子高齢社会が抱える課題に気づいている。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1章 私たちの暮らしと現代社会	<b>●節の評価規準</b>					
	第2節 現代につながる伝統と文化  2	○現代社会における文化の意義や影響を理解する。  ○我が国の伝統と文化に関心を持ち、文化の継承と創造の意義に気づく。	これからの日本の科学技術のあり方について、意欲的に考えようとしている。また、我が国の伝統と文化の意義や、現代社会への影響に対する関心を高めるとともに、それが自然や社会との関わりの中でどのように受け継がれてきたのかについて、意欲的に追究しようとしている。	我が国の伝統と文化の意義や、それらが現代社会に与えている影響、さらに、新しい文化の創造に努めることによって初めて普遍的で個人的な文化が育ち得ることなどについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	現代社会における文化の意義や影響、我が国の伝統と文化に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集している。	日本の科学技術の発展と、社会の変化や自分たちの暮らしとの関わりについて理解している。また、文化によって初めて豊かな生活を享受できること、ものの見方や考え方、判断、価値観などが文化によって影響を受けていること、文化が現代社会を規定する大きな要因の一つであることを理解し、その知識を身につけている。
	<b>●各単元の評価規準</b>					
	①豊かな生活を実現するために  1	○科学技術の発展がもたらした社会の変化や、私たちの暮らしへの影響について理解する。  ○日本人の宗教観と宗教のもつ意味や、私たちの暮らしの中で果たす役割を考える。	科学技術の発展による社会の変化や、宗教が人々の考え方や行動に与えている影響について、関心をもって調べようとしている。	これからの日本の科学技術のあり方や、宗教が果たす役割について、それぞれが自分たちの暮らしに与える影響と関連づけながら考察している。	科学技術の発展や宗教の存在が、社会の変化や自分たちの暮らしに与えた影響について、さまざまな資料（写真・統計資料・新聞・インターネット等）から読み取り、まとめている。	科学技術の発展や宗教が、自分たちの暮らしと深く関わり、大きな役割を果たしていることについて理解している。
	②理解し、尊重し合うこと  1	○日常生活の中から日本の伝統や文化、芸術を探し出すとともに、それらが自分たちの暮らしの中で、どのような役割を果たしているかを理解する。  ○異文化交流を積極的に行うことの意義について考える。	伝統や文化、芸術が自分たちの暮らしの中で果たしている役割について、追究しようとしている。	伝統や文化、芸術が自分たちの暮らしの中で果たしている役割について、多面的・多角的に考察している。	伝統や文化、芸術作品に関するさまざまな資料から、それらが人々の暮らしに与えている影響について調べ、まとめている。	伝統や文化、芸術が自分たちの暮らしに与えている影響や、果たしている役割について理解している。
☆読んで深く考えよう つなげたい、日本の伝統や文化  (1)	○過去から受け継がれ、身近なところに息づいている伝統や文化について理解し、未来へ継承していくことの意味について考える。	伝統や文化に対する関心を高め、日本の伝統や文化について追究しようとしている。	これまで受け継がれてきた伝統や文化を継承することの意味について、自分なりに考えを深めている。	さまざまな資料から、日本の伝統や文化にはどのようなものがあるのかを調べ、まとめている。	自分たちの暮らしが多くの伝統や文化とともに成り立ってきたことや、それらを継承することの意味に気づいている。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1章 私たちの暮らしと現代社会	<b>●節の評価規準</b>					
	第3節 私たちがつくるこれからの社会  3	○人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、ルールやきまりの意義について考える。  ○現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。	家族、地域社会、学校、職場などさまざまな集団における物事の決定の仕方、きまりを守ることの意味に対する関心を高め、身のまわりの生活と関連づけながら、意欲的に追究しようとしている。	社会集団の一員として所属する集団や所属員に関わる問題を解決する際、どのような決定の仕方が望ましいのかについて、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、さらに、決定したことを「きまり」として守ることによどのような意味があるのかについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。	社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などを理解するために役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	人間は社会的な存在であり、よりよい社会生活を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であることや、社会生活において「対立」が生じた場合、互いの利益が得られるよう、何らかの決定を行い、「合意」に至る努力がなされていることと、さらに、合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要であることを理解し、それらの知識を身につけている。
	<b>●各単元の評価規準</b>					
	①さまざまな人と生きる  1	○人間は、誰もが社会集団の中で生きる社会的存在であることに気づく。  ○ルールやきまりに込められた意味を理解し、契約とそこにある責任と義務などの重要性について考える。	人間が社会的存在であることや、社会生活を営むうえでルールやきまりが必要であることの意味について考え、調べようとしている。	社会の中でルールやきまりがもつ意味や、契約の重要性について、自分なりに考えたことを整理し、まとめている。	身近な社会にあるさまざまなルールやきまりに関わる資料を収集し、その内容や成立の経緯について調べている。	ルールやきまりに込められた意味と必要性、また契約を結ぶことに伴う責任と義務について理解している。
	②よりよい社会を築くために  1	○社会で暮らす人々の間のさまざまな対立の存在と、それを解決し合意を旨としていくことの意義に気づく。  ○「マンションの駐車場問題」を例に、対立から合意に向けた新たなルール作りのあり方について考える。	「マンションの駐車場問題」を例に、立場によるさまざまな意見の対立の存在と、そこから合意を旨としていくために必要な考え方を追究しようとしている。	生じた対立を解決し合意を旨としていく際には、どのような観点をふまえてルールを作っていけば良いかを、「マンションの駐車場問題」を例に考えている。	学校で起こるさまざまな問題について、その対立点を明らかにしたり、集合住宅が抱える問題についての資料を収集して、解決に向けた取り組みを読み取ったりしている。	対立から合意を形成していくための方策としてルールが成り立っていることや、これからの未来を担う自分たちがルールを作り、社会を守っていく責任があることに気づいている。
③誰もが大切にできるルールとは  1	○「マンションの駐車場問題」を解決する事例を通して、対立する意見の調整の仕方を学ぶとともに、誰もが納得できるルールを、話し合いによって自分たち自身が作っていくことの意義に気づく。  ○効率と公正の観点から他者との合意を形成する努力を積み重ねながら、対立から合意を得ていくことの意義に気づく。	効率と公正の観点から、さまざまなルールのもつ意味や目的について追究しようとしている。	効率と公正の観点から、さまざまな人の立場に立って公平なルールについて考え、整理したことを自分なりに表現している。	マンションの駐車場のルールを考える際に必要となる観点や、身のまわりのさまざまなルールで重視したいことについて、身近な家族や友人たちに調査し、まとめている。	対立が生じた場合、効率や公正の観点から十分な意見交換を行い、合意を得るための努力を積み重ねた結果としてルールが作られていることや、そのルールを調整しながら守っていくことの大切さに気づいている。	
★言葉で伝え合おう 「情報リテラシー」 ってなんだろう  (1)	○「情報リテラシー」の観点から、さまざまな情報を活用する際の留意点や課題について、具体例をもとに考える。	情報化が進む現代社会において、多くの情報をどのように入手し、活用するべきかについて、考えようとしている。	情報を見極める力としての「情報リテラシー」をテーマに、情報を入力し活用する際の留意点について考え、自分の言葉で表現している。	資料（図版・写真・データ）を読み取る際の留意点を理解するとともに、他者との意見交換を通じて、情報を取捨選択し、適切にまとめている。	各種メディアの特性を理解するとともに、「情報リテラシー」や「クリティカル・シンキング」の意味について学び、考えを深めることの意義に気づいている。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・解	
第2章 人間を尊重する 日本国憲法	◇はじめに なぜ憲法を学ぶのか 1	○憲法を学ぶにあたって、立憲主義の憲法や法の構成についての理解を深め、憲法とは何か、なぜ憲法を学ぶ必要があるのかについて興味・関心をもつ。	憲法とは何か、また、憲法と私たちの生活がどのように関係しているのかを、意欲的に調べようとしている。	憲法のもつ意義や立憲主義の考え方について、さまざまな視点から考察している。	日本国憲法の条文資料などから、憲法のもつ意味や意義を調べ、まとめている。	立憲主義の憲法が「人権の保障」と「権力の分立」の二つの内容で構成されていることや、「法の構成」図の内容を正しく理解している。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第1節 民主主義を支える日本国憲法 3	○日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原理としていることについての理解を深める。  ○日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事行為について理解する。	人間の尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、民主的な社会生活について考えようとしている。	我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、民主的な社会生活に関わるさまざまな事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	人間の尊重についての考え方と法に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。また、日本国憲法の意義や基本的な考え方について、掲載資料や憲法の条文資料などから適切に読み取ってまとめている。	人間の尊重についての考え方、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原理としていること、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
	①侵すことのできない 永久の権利 1	○人権思想の歴史や特色を整理してまとめ、人権の保障が必要となった背景について考えを深める。  ○大日本帝国憲法制定の背景や、内容の特徴について理解する。	人権が保障されるようになった理由を、歴史的な背景から追究しようとし、大日本帝国憲法の特徴について考えようとしている。	日本における人権思想の獲得の歴史を、資料や文章から読み取り、自分の言葉で表現している。	人権思想の歴史年表を使い、「基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の成果」（第97条）であることを読み取り、人権思想の成立過程についてまとめている。	世界の人権思想の歴史と、日本の人権思想の歴史とのつながりや、それぞれの流れを正しく理解している。	
	②憲法はこうして生まれた 1	○日本国憲法の成立過程とその意義について、大日本帝国憲法と比較しながら考察し、説明することができる。  ○憲法の三つの基本原理を理解し、基本的人権の保障が強く規定されていることの意義を理解する。	日本国憲法の成立過程や、三つの基本原理について、大日本帝国憲法との比較から考えようとしている。	日本国憲法成立の過程を歴史的な事象と関連づけて考え、大日本帝国憲法と日本国憲法との相違点について考察している。	日本国憲法ではどのような権利が新たに保障されたのか、大日本帝国憲法の特徴と比較しながら調べ、自分の言葉でまとめている。	日本国憲法の成立過程とその意義について、大日本帝国憲法との比較を通して理解し、その知識を深めている。	
	③国民の意思による政治 1	○将来の日本を担う主権者の一人として、国民主権の意義やその実現について考える。  ○象徴天皇制の意義や特徴について理解し、国民主権の原理について理解を深める。	日本国憲法の三つの基本原理のうちの「国民主権」が、身近な生活の中でどのように生かされているかを考えようとしている。	「国民主権」の意味や意義を、選挙などの身近な暮らしの中の具体的な事例や、象徴天皇制についての理解を通して考察し、自分の言葉で表現している。	国民主権の原理に関して、憲法改正の際の国民投票による決定方法や、天皇の地位が「主権の存する日本国民の総意に基く」（第1条）ことを、日本国憲法の条文資料などから適切に読み取り、まとめている。	日本国憲法の基本原理や国民主権と象徴天皇制、憲法改正の手続きについて、それぞれを正しく理解し、その知識を身につけている。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 人間を尊重する日本国憲法	<b>●節の評価規準</b>					
	第2節 憲法が保障する基本的人権  10	○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。  ○民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考える。	日常の具体的な事例を通して、人間尊重についての考え方や法に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、民主的な社会生活について考えようとしている。	我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、多面的・多角的に考察し、民主的な社会生活のあり方について、「公共の福祉」の考え方をふまえて公正に判断できる。	人間尊重の考え方や法に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取った図表などにまとめたりしている。	人間尊重の考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義と法に基づく政治の大切さについて理解し、その知識を身につけることができる。
	<b>●各単元の評価規準</b>					
	①私たちの権利としての自由  1	○自由権の考え方や意義について、身近な生活との関わりから理解する。  ○日本国憲法の条文から、精神活動の自由についての内容を具体的に読み取り、理解を深める。	身近な生活の中から、精神活動の自由がどのように保障されているかを調べようとしている。	具体的な事例をふまえて、精神活動の自由をさまざまな視点から考察し、わかりやすく説明している。	具体的な事例から、精神活動の自由に関する内容を読み取り、まとめている。	自由権の考え方や意義と、そのうちの精神活動の自由の内容を正しく理解している。
	②自由な社会のために  1	○憲法で保障された生命・身体の高自由について、憲法の条文や具体例を通して、理解を深める。  ○憲法で保障された経済活動の自由について、憲法の条文や具体例を通して、その意義や目的を考える。	身近な生活の中から、生命・身体の高自由や、経済活動の自由がどのように保障されているかを調べようとする。	具体的な事例をふまえて、生命・身体の高自由や経済活動の自由について、さまざまな立場や視点から考察し、わかりやすく説明している。	具体的な事例から、生命・身体の高自由や、経済活動の自由に関する内容を読み取り、まとめている。	自由権における生命・身体の高自由と経済活動の自由の内容を、正しく理解している。
	③法の下での平等とは  1	○個人として尊重されることの意味と意義や、すべての国民の高自由や平等が保障されて民主主義が実現することを理解する。  ○女性や障がいのある人などへの差別や偏見が人権侵害であることを理解し、自らの意識や行動を変化させる態度を養う。	社会に今なお残る、女性や障がいのある人々への差別に目を向け、歴史的背景を正しく理解しながら、差別の現実について意欲的に調べようとしている。	女性や障がいのある人々への差別に関する具体例を通して、さまざまな視点からその原因を考察している。	女性や障がいのある人々の権利を保障するための法律が、どのような経緯で制定されたのかについて調べ、まとめている。	女性や障がいのある人々への差別の解消に向けた取り組みを通して、憲法第14条「法の下での平等」の内容を理解している。
	④差別をしない、させない  1	○具体的な事例を通じて差別の実態に気づき、自らの生活と結びつけて差別の問題を考え、それを許さない態度を養う。  ○差別の解消に向けて主体的に考え、取り組んでいこうとする態度を身につける。	社会に今なお残る、部落差別やアイヌ民族、定住外国人への差別に目を向け、歴史的背景を正しく理解しながら、差別の現実について意欲的に調べようとしている。	部落差別やアイヌ民族、定住外国人への差別に関する具体例を通して、さまざまな視点からその原因を考察している。	部落差別やアイヌ民族、定住外国人の権利を保障するための法律が、どのような経緯で制定されたのかを調べ、まとめている。	部落差別やアイヌ民族、定住外国人への差別の歴史的背景や差別の内容、その解消に向けた取り組みについて、正しく理解している。
☆読んで深く考えよう ともに生きる社会を 目指す人たち  (1)	○識字運動やハンセン病問題に関する具体的な事例を読み解くことを通じて、人権についてさらに深く考える。	さまざまな人権尊重の取り組みに興味や関心をもち、自分にできることは何かを考えようとしている。	識字運動やハンセン病問題の原因について、多面的・多角的に考察し、自分の考えを発表している。	識字運動やハンセン病問題に関する資料を調べ、実態や取り組みについてまとめている。	識字運動やハンセン病問題の歴史的な背景や取り組みを、正しく理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 人間を尊重する日本国憲法	⑤人間らしく生きるための権利 1	○社会権の意義を自由権や平等権の保障との関連で考えるとともに、社会権の考え方が生まれた背景を理解する。  ○社会権の最も基本となる生存権の保障と、それに基づく制度について理解を深め、その意義を考える。	社会権が生まれた背景を調べるとともに、社会保障制度の改善や充実に向けた取り組みを追究しようとしている。	すべての人に生存権が十分に保障されていない理由について、さまざまな視点から考察し、わかりやすく説明している。	社会権（生存権）の必要性について、高齢社会の進展や不況の影響などに関する資料を活用して調べている。	社会権が求められてきた背景を理解するとともに、社会権の内容と意義を正しく理解している。
	⑥20世紀生まれの権利 1	○社会権において、教育を受ける権利が保障されていることについて理解し、その意義を考える。  ○労働者を守る権利が保障されるようになった歴史的背景や、法の整備を含めた政府の取り組みについて理解する。	身近な生活の中で、「教育を受ける権利」と「労働者の権利」がどのように生かされているかを調べようとしている。	教育や労働に関する権利が保障されるようになった背景を、歴史的経緯から考察している。	「教育を受ける権利」や「労働三権」、「労働三法」の内容や意義を調べ、まとめている。	「教育を受ける権利」や「労働者の権利」、「労働者を守るための法律」の内容や意義を、正しく理解している。
	⑦みんなで育てる人権意識 1	○新しい人権の根拠や内容について、その背景となる社会の変化と関連づけて考えるとともに、さまざまな取り組みについて理解する。  ○新しい人権について、立場による考え方の違いや高まる個人の責任などにも着目し、人権の問題を公正に判断する態度を養う。	社会の変化と関連づけながら、新しい人権が生まれた根拠や内容を調べようとしている。	新しい人権が生まれてきた背景と意義について、他者との意見交換を通じて自分の意見をまとめ、わかりやすく表現している。	新しい人権について、具体的な事例をもとに調べ、その根拠や内容をまとめている。	新しい人権が生まれてきた根拠や内容を、具体的な事例をもとに正しく理解している。
	★言葉で伝え合おう 犯罪の防止か、プライバシーの保護か  (1)	○「自分が住む地域に監視カメラを設置するべきか」を論題にディベートを行うことを通して、それぞれの立場や考え方の違いを理解したうえで、自分の考えをもつようになる。	監視カメラの設置の是非を考えるディベートを行うことに対して、興味や関心をもって取り組もうとしている。	自分の主張の裏づけとなる根拠を、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で発表している。	さまざまな資料を収集し、読み取ったことをもとに自分の主張や根拠をまとめている。	ディベートの方法や流れを把握し、自分の主張とその根拠を正しく理解している。
	⑧基本的な人権を守るために 1	○参政権の内容と意義を具体的な事例を通じて理解し、国民が政治や裁判に積極的に参加し、監視することの重要性に気づく。  ○人権の救済を求める権利が保障されていることや、人権の救済のために多くの人に関わり、社会全体で人権を守るしくみづくりが進んでいることを理解する。	基本的人権を守るために保障されている権利を、身近な生活の中から見いだそうとしている。	基本的人権を守るための権利の内容を正しく理解し、そのために自らできることを考察している。	基本的人権を守るための権利について、さまざまな資料を活用して調べている。	参政権と請求権の内容や、人権が侵害された場合にどのような権利や制度が保障されているかについて、正しく理解している。
	⑨人権侵害のない世界に 1	○世界に広がる人権問題と、それに対する取り組みについて理解し、国際的な理解と協力の必要性が高まっていることに気づく。  ○日本と世界の人権をめぐる課題の比較などを通して、今後の日本の役割や自分たちにできることを考える。	人権侵害のない世界を築くために、自分たちにできることは何かを考慮しようとしている。	人権侵害のない世界を築くために、国として、個人としてなど、さまざまな立場から考察している。	日本と世界の人権をめぐる課題について、さまざまな資料やグラフなどをもとに調べ、まとめている。	国際社会における人権尊重のために、国連や日本政府、NGOなどが取り組んでいることや、主な取り決めなどについて正しく理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第2章 人間を尊重する 日本国憲法	⑩自由と権利を守るために 1	○自由と権利を守るために、国民一人一人が個々の責任や義務を果たすことの重要性について考える。  ○権利の濫用の問題や公共の福祉の意味を考え、相互の尊重や合意を図る態度の大切さに気づき、自らの態度や行動に具現化する。	私たち国民一人一人が果たさなければならぬ責任や義務について、具体的に考えようとしている。	人権と「公共の福祉」がぶつかり合う具体例をもとに、それぞれの視点から考察して、自分の考えを発表している。	人権と「公共の福祉」がぶつかり合う具体例を調べ、その内容や特徴をまとめている。	「公共の福祉」の意味をふまえたうえで、国民の果たすべき三つの義務やさまざまな権利の内容を理解している。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第3節 私たちの平和主義 2	○日本国憲法が掲げる平和主義の考え方の背景とその意義を理解し、日本の防衛と安全の問題について考える。  ○日本の安全保障の現状や課題、国際社会における役割をとらえ、戦争を防止し世界平和を確立するためにどうあるべきかを考える態度を養う。	世界平和の実現と、人類の福祉の増大に関わる国際社会の諸問題に対する関心を高め、意欲的に追究し、人間の生命の尊さ、平和の尊さを自覚しようとする。また、未来に向けた世界の平和の構築のために、具体的な活動に取り組んでいる人々の姿から、国際社会における平和の構築について理解を深めようとする。	日本の安全と世界の平和をいかにして実現すべきかについて、多面的・多角的に考察し、これからのよりよい社会のあり方について自分なりに考察を深め、自分の言葉で表現できる。	世界平和に関わる問題に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用できる。また、国際社会の平和に関わる課題を追究し、考察した過程や結果を図表化したり、報告書にまとめたりしながら、発表や討論を行うことができる。	平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、国の安全と生存を保持しようとする。また、日本が国際紛争解決の手段としての戦争を放棄し、陸海空軍その他の戦力を保持しないことを決意したことについて理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
①憲法に定められた平和主義 1	○平和主義という考え方が生まれた背景に気づき、平和主義という考え方のもつ意義を理解する。  ○日本のこれまでの平和主義の歩みや、安全と防衛の問題について、自衛隊と文民統制の視点などから考える。	日本国憲法に定められた平和主義の意義と、自衛隊の存在や役割について、興味や関心をもって調べようとしている。	日本の平和主義について、歴史的経緯や国際社会からの見方など、さまざまな視点から考察し、自分の言葉で表現している。	「各国の憲法における平和条項」との比較や、「自衛隊の主な役割」などの資料をもとに、新聞やインターネットなどを活用して日本の平和主義について調べたことをまとめている。	日本国憲法前文の「平和的生存権」や第9条の「戦争の放棄」による平和主義の考え方と、自衛隊の関係について正しく理解するとともに、日本の安全と防衛の問題に関する知識を身につけている。		
②日本の安全保障と平和主義のこれから 1	○日本の安全保障の現状と、国際社会の平和に対する日本の貢献のあり方について理解を深める。  ○日本国憲法における平和主義の立場をふまえながら、これからの社会の平和の構築について考える。	日本の平和主義と、日米安全保障条約や自衛隊の国際貢献との関連について調べ、今後日本がどのように世界平和の構築に貢献していくことができるかを考えようとしている。	日本国憲法第9条の内容と、自衛隊や国際平和協力法との関連やあり方について、さまざまな視点から考察している。	「日本にある米軍基地」や「自衛隊の海外での主な活動」、「日本の防衛に関する主なできごと」などの資料をもとに、新聞やインターネットなどを活用して日本の安全保障の現状について調べ、まとめている。	日米安全保障条約の内容について理解し、世界平和の構築に向けて考えを深めていくことの大切さを理解している。		
☆読んで深く考えよう 国際社会の厳しい現実と平和主義 (1)	○日本の平和主義の理想と現実を理解したうえで、未来の平和のために具体的な活動に取り組んでいる人たちの姿を学ぶことで、国際社会における平和の構築について考える態度を養う。	国際社会の現状を理解したうえで、未来に向けた平和の構築に対して、自分にできることは何かを考えようとしている。	沖縄県が置かれている現状や、沖縄戦を語り継ぐ人々のメッセージなどから感じ取ったことを、自分の言葉でまとめ、表現している。	日本の平和主義の理想と現実や、沖縄県が置かれている現状などについて、さまざまな資料を新聞やインターネットなどを活用して適切に収集し、読み取ったことをまとめている。	未来の平和の構築に向けて行われているさまざまな取り組みや、そこに込められたメッセージを正しく理解している。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第3章 私たちの暮らしと民主政治	◇はじめに 政治とはなんだろう 1	○民主主義の意義とともに、議会制民主主義（代議制）の一般的なしくみを理解する。  ○多数決の原理と少数意見のあり方について理解し、民主主義と権力との関係について考える。	民主主義の重要性に気づき、民主的な政治への興味や関心をもとうとしている。	「多数決の原理と少数意見の尊重」の重要性について、自分なりに考察し説明している。	多数決で決めるにはいけないことについて、その根拠や考え方をまとめている。	民主主義の意義や、議会制民主主義（代議制）の簡単なしくみを正しく理解している。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第1節 民主主義と日本の政治 9	○国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割を理解し、議会制民主主義について考える。  ○多数決の原理とその運用のあり方について理解を深める。	国が行う現実の政治に対する関心を高め、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方や、その考え方に基づく国の政治のしくみについて意欲的に追究し、さらに、将来国政に参加する公民として、民主的な政治と政治参加の方法について考えようとしている。	国民の代表者から構成される議会で国民の意思を決定する議会制民主主義が、日本の政治の原則になっていることや、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法として選挙があることをふまえ、将来の主権者として主体的に政治に参加することの意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、民主的な政治と政治参加に関わる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国の政治のしくみに関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、その資料の中から、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方や、政治のしくみについての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることや、内閣については、日本が議員内閣制を採用していること、また政党は、議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであるということについて、それぞれ理解している。さらに、多数決が民主的な議決方法として用いられるには、十分な説得と討論が必要であり、そのため言論の自由が保障されなければならないことや、多数決が公正に運用されるためには、反対意見や少数意見が十分に尊重される必要があることを理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
①国民の代表を選ぶ選挙 1	○選挙の意義としくみを理解させ、民主的な選挙権の行使について考える。  ○日本の選挙制度を理解するとともに、一票の価値の地域ごとの格差など、選挙をめぐるさまざまな課題について考える。	選挙の重要性を認識し、選挙のしくみや課題について追究しようとしている。	日本の選挙制度の長所や短所について考え、投票率の低下や一票の格差などの課題について考察している。	投票率の低下や一票の格差などの課題を解決するための方法について調べ、まとめている。	選挙の意義と日本の選挙制度のしくみや課題について、正しく理解している。		
②願いをかなえる政党政治 1	○政党がもつ意義や、政党の働きについて理解する。  ○政党と国民との関わりや、政党による政治運営のしくみなどの観点から、政党政治の役割について考える。	各政党の公約やマニフェストに対し、興味や関心をもって調べようとしている。	今後の政党のあり方について、国民の立場から公正に判断し、自分の言葉で説明している。	日本の主な政党が掲げる公約やマニフェストを調べ、主張の共通点や相違点を読み取っている。	日本の政党のしくみや働きについて、具体的な事例をもとに正しく理解している。		
③マスメディアと政治 1	○世論とそれを形成するマスメディアの機能を理解し、民主政治との関わりを考える。  ○新聞記事などの具体例を通して、マスメディアが国民に対して果たす役割について理解する。	マスメディアの重要性と危険性を認識したうえで、マスメディアを効果的に活用し、政治参加への意欲を高めようとしている。	世論やマスメディアの正しいあり方について、自分なりに考察し説明している。	複数の新聞から同じ記事を抜き出し、共通点と相違点をまとめている。	世論やマスメディアが政治に及ぼす影響について、その意義や役割を正しく理解している。		



章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 私たちの暮らしと民主政治	④国会の決定は国民の意思 1	○憲法で定められた国会の地位と、国会のしくみや種類について理解する。  ○法律の制定を中心とした、国会が行うさまざまな仕事を理解し、その意義を考える。	憲法で定められた国会の地位に気づき、国会の仕事への興味や関心を高めようとしている。	法律が制定されるまでの手続きやしくみについて、公聴会など各機関の果たす役割なども含め、多面的に考察している。	新聞やインターネットなどさまざまな資料を収集し、国会の主な仕事とその特徴をまとめている。	国会が国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることや、国会の種類と主な仕事について、正しく理解している。
	⑤二つの院をもつ国会 1	○二院制がとられている意味と、「衆議院の優越」がもつ意義について考える。  ○国会での審議がどのように行われているか、国会の運営のしくみを理解する。	国会で二院制がとられている意味や、どのように国会が運営されているのかについて、興味や関心をもって調べようとしている。	日本が二院制や衆議院の優越を採用している理由について、多面的・多角的に考察している。	新聞やインターネットなどを活用して、国会のしくみや国会運営のきまりなどを調べ、主な特徴をまとめている。	日本が二院制や衆議院の優越を採用している理由について、その意義や背景にある考え方を正しく理解している。
	⑥国会議員が果たす役割 1	○国会において、国会議員がどのような役割を果たしているかについて、議員の具体的な活動や仕事の内容から理解を深める。  ○内閣と議員それぞれの立法活動の特徴や課題について、考えを深める。	国会議員の仕事や議員の果たす役割について、興味や関心をもって調べようとしている。	国会議員の役割を「法律の制定」を中心にとらえ、立法活動の特徴や課題について、多面的・多角的に考察している。	新聞やインターネットなどを活用し、立法活動に関する情報を収集し、それらをまとめている。	国会議員の仕事や議員の果たす役割とその意義について、正しく理解している。
	⑦内閣と国会の関係 1	○内閣の構成や具体的な仕事を理解し、我が国の議院内閣制のしくみとその意義について、アメリカの大統領制との比較を通して理解を深める。  ○内閣が交代する背景や手続きについて、具体的な事例を通して理解する。	内閣の主な仕事と、議院内閣制のしくみ、内閣による衆議院の解散について、興味や関心をもって調べようとしている。	外国の制度と比較しながら、議院内閣制のあり方や特徴を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。	新聞やインターネットなどを活用し、内閣不信任案の可決や内閣の解散に関する資料を集め、その内容をまとめている。	内閣の主な仕事と、議院内閣制の意義やしくみについて、具体例を通して正しく理解している。
	⑧行政をまとめる内閣 1	○内閣総理大臣や国務大臣、各行政機関の仕事などから、内閣が果たす役割を具体的に理解する。  ○各行政機関で働く公務員の仕事や、公務員の果たす役割について理解する。	内閣のしくみと国務大臣の仕事、国のさまざまな機関で行われる仕事やそこで働く人々について、興味や関心をもって追究しようとしている。	内閣のしくみや、内閣総理大臣と国務大臣の役割を整理して、その意義を自分なりに考察している。	各省庁のホームページを利用して、それぞれの仕事と内閣における役割や、権限などについて調べ、わかりやすくまとめている。	内閣のしくみと仕事、各国務大臣の仕事、公務員の果たす役割について、正しく理解している。
	⑨暮らしと関わる行政 1	○自分たちの暮らしと関わる行政が、どのような課題を抱え、改革が進められてきたかを理解する。  ○これからの行政のあり方と、行政における効率と公正について、具体的に考える。	私たちの暮らしがよりよくなるための行政のあり方を、興味や関心をもって調べようとしている。	行政改革の長所と短所について、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で説明している。	新聞記事やインターネットなどから、行政改革に関する情報を収集し、その内容をまとめている。	行政権の肥大化から、行政改革を経て現在に至るまでの行政の変化と現状を、正しく理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 私たちの暮らしと民主政治	●節の評価規準					
	第2節 司法権の独立と裁判  5	○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。  ○個人の人権を保障するために三権分立の原則があることや、三権が均衡を保ち、それぞれの役割を果たしていくことの重要性に気づく。	法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることに関心を持ち、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて、理解を深めようとしている。	国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、模擬裁判の体験活動などを通して、国民の司法参加に期待されることや課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を自分の言葉で表現している。	憲法で保障された、司法権の独立と法に基づく公正な裁判に関わる課題についての資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用できる。また、国民の司法参加に関わる課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり、報告書にまとめたりしながら、発表や討論を行うことができる。	法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることを理解し、その知識を身につけている。また、国会・内閣・裁判所のそれぞれの地位やはたらき、相互の関係性を理解し、民主政治が実現していくために、三つの権利が均衡を保ちながら果たしている役割を理解し、知識として身につけている。
	●各単元の評価規準					
	①権利と秩序を守るために  1	○裁判のはたらきと、裁判所の種類について理解する。 ○民事裁判のしくみと行政裁判について、具体例をもとに理解する。	法の役割や裁判所のはたらきについて、興味や関心を高めようとしている。	民事裁判のしくみや特徴について、多面的・多角的に考察してまとめている。	新聞記事やインターネットなどから、行政裁判に関する情報を収集し、その内容をまとめている。	裁判のはたらきと裁判の種類、民事裁判と行政裁判の特徴について、正しく理解している。
	②犯罪を裁く  1	○刑事裁判のしくみや特徴を、民事裁判の学習との比較を通して、具体的に理解する。 ○裁判官、検察官、弁護士といった裁判に関わる人々の、それぞれの役割や意義について考える。	刑事裁判のしくみや刑罰の種類について、興味や関心をもって調べようとする。	民事裁判との比較を通して、刑事裁判の特徴をまとめ、自分の言葉で説明している。	新聞記事やインターネットなどを活用して、裁判に関わる人々の仕事や役割に関する情報を集め、その特徴を読み取ってまとめている。	刑事裁判のしくみや、裁判に関わる人々のそれぞれの役割について、正しく理解している。
	③公正な裁判とは  1	○三審制や再審制度など、人権を守るためのしくみについて理解し、慎重な裁判を確保することの意義について考える。 ○被疑者・被告人の権利と被害者参加制度について理解し、その意義や課題について考える。	私たちにあって公正な裁判とはどのような裁判かを、具体的に考えようとしている。	被疑者・被告人の権利と、被害者とその家族を守るための裁判のあり方について、多面的・多角的に考察している。	過去の再審裁判に関する情報を集め、その内容や判決結果をまとめている。	三審制の意義や、被疑者・被告人の権利を守るためのさまざまな制度について、正しく理解している。
	④私たちの司法参加  1	○裁判員制度のしくみと、制度が導入された意義について理解し、長所や短所について整理する。 ○司法制度改革の課題と、これからの司法制度のあり方について考える。	国民の司法参加の広がりについて、興味や関心をもって調べようとしている。	裁判員制度が果たす役割やこれからのあり方を、自分の言葉でまとめて発表している。	司法制度の現状やこれからの課題について、さまざまな資料をもとに情報を収集している。	裁判員制度を中心とした司法制度改革のこれまでの取り組みや、今後期待されることについて正しく理解している。
	★言葉で伝え合おう もしも私が裁判員裁判に参加したら  (1)	○事例をもとに、自分が刑事裁判に参加したつもりで判決を考える活動を通して、法に基づく公正な裁判の意義について理解する。	裁判に対する興味や関心を持ち、意欲的に裁判シミュレーションに参加したり、裁判傍聴を体験したりしようとしている。	裁判の事例における「殺意」の有無や、「正当防衛」の成立の有無などについて、自分が裁判に参加したつもりで多面的・多角的に考察し、表現している。	新聞記事やインターネットなどを活用して、裁判員裁判への参加や裁判傍聴に関するさまざまな情報を収集し、まとめている。	実際の裁判の流れや、裁判員裁判に関わる人々の役割を正しく理解している。
	⑤互いに監視し合う三つの権力  1	○三権分立のしくみに基づく司法権の独立の意義を理解し、違憲立法審査権の意義について考える。 ○三権の相互の抑制について考え、三権分立のしくみが権力の濫用を防ぎ、国民の自由を保障しようとしていることに気づく。	これまでの学習をふまえて、司法権の独立や三権分立の意義について考えようとしている。	なぜ三権が分立しているのか、なぜ司法権が独立しているのかについて、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で具体的に説明している。	三権分立の図を読み取って、三権の関係をまとめている。	三権分立のしくみと違憲立法審査権の意義について、正しく理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 私たちの暮らしと民主政治	●節の評価規準					
	第3節 地方自治と住民の参加  4	○地方自治の基本的な考え方や、政治のしくみを理解する。  ○住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることができる。	地方公共団体が実際に行われている政治に対する関心を高め、自分自身の課題としてそれらを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとする。また、身近な暮らしと政治との関わりについて興味をもち、地域の政治に参加する住民や中学生の姿から、自分にもできることは何かを意欲的に考えようとする。	地方公共団体が果たしている役割や地方財政のあり方について、地方公共団体の経済活動に関わるさまざまな事象から課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地方公共団体の政治に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	地方自治は、住民参加による住民自治が基本であることを理解し、その知識を身につけている。また、地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていることを理解し、その知識を身につけている。
	●各単元の評価規準					
	①身近な地域の政治  1	○地域が抱える課題に気づき、住民参加による地方自治の意義について考える。  ○地方自治のしくみが「民主主義の学校」ともよばれることを、国政との比較などを通して理解する。	自分が住む地域の政治に関心を持ち、自分自身も住民の一人であるという意識をもって、地方自治のしくみや意義について調べようとしている。	地域社会の政治のあり方や、首長と議会の関係を中心とした地方自治のしくみについて、多面的・多角的に考察している。	自分が住んでいる地域の特徴や課題について、地方公共団体が発行する広報紙や地域のケーブルテレビなど、さまざまな方法で資料を収集し選択している。	地域社会が抱える課題や、地方自治のしくみと意義について、正しく理解している。
	②暮らしを支える地域の行政サービス  1	○地方公共団体の仕事について、具体例を通して理解を深める。  ○地方財政のしくみと、近年の課題や取り組みについて理解する。	地方公共団体の仕事や地方財政の現状について興味や関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	地方財政の現状を理解する中で、地域が抱えているさまざまな課題について、多面的・多角的に考察している。	自分が住む地方公共団体の財政の現状について、地方公共団体が発表する統計資料などから調べ、その特色を具体的にまとめている。	地方公共団体の仕事や地方財政のしくみと特徴を、正しく理解している。
	③住民参加で地域をつくる  1	○住民がもつさまざまな権利とその意義を理解し、住民の自治意識を高めることの大切さに気づく。  ○日本各地で、さまざまな住民投票の実施や、特色ある条例の作成が行われていることを理解し、主体的に地方自治に取り組もうとする意欲を喚起する。	地域住民の一人としての自覚をもちながら、地方の政治に興味や関心をもって取り組もうとしている。	地方の政治に直接民主制のしくみが多く取り入れられている理由について、多面的・多角的に考察している。	新聞記事やインターネットなどから、「住民投票」に関する情報を集め、それをわかりやすくまとめている。	直接請求権や住民投票など、さまざまな住民の権利がもつ意義について、正しく理解している。
	④変わりゆく地域社会  1	○地域の自立に関わる取り組みと、その課題について理解し、今後の新しい取り組みを考える。  ○外国人市民との共生や国際交流など、世界に開かれた地域社会のあり方について考え、理解を深める。	身近な地域づくりに関心を持ち、さまざまな取り組みについて調べたり、課題の解決に向けて自分たちにできることは何かを考えようとしている。	市町村合併の長所と短所や、地域社会を取り巻く課題とその解決について、多面的・多角的に考察している。	外国人労働者や留学生など地域に定住する外国人に対して、自分が住む地方自治体が国際交流の視点から取り組んでいる資料を適切に収集し、まとめている。	市町村合併や開かれた地域づくりについて、その意義や課題を具体的に理解している。
★言葉で伝え合おう まちづくりのアイデアを提言しよう  (1)	○身近な地域の現状や課題をとらえ、地域の政治に対して自分たちにできる活動を考える。	「市民オンブズマン」や「中学生議会」など、地域の政治に関わる人々の姿を通して、地域社会の中で自分にもできることは何かを考えようとしている。	地域が抱える課題をもとに、これからの地域社会の発展に向けて自分たちにもできることを考え、自分の言葉で表現している。	新聞記事やインターネットなどから、地域の政治に関わる市民の取り組みに関する情報を、適切に収集してまとめている。	「市民オンブズマン」の役割や、「中学生議会」などの地域でのさまざまな政治参加への取り組みとその意義を、正しく理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第4章 私たちの暮らしと経済	◇はじめに循環する経済 1	○経済を動かす三つの主体をとらえながら、自分たちの暮らしと経済活動とのつながりへの関心を高める。	お金の果たす役割や、自分たちの身近な暮らしと経済活動とのつながりについて関心を高め、経済活動の意味について考えようとしている。	家計と企業、企業と政府、政府と家計がそれぞれどのように結びつき、身のまわりの暮らしとどのように関わっているのかを考察している。	さまざまな資料の読み取りを通して、「もの」や「人」、「お金」の動きについてわかったことを、家計、企業、政府を中心とした図表などにまとめている。	家計、企業、政府の三主体が互いに結びつき、もの・人・お金を動かしていることを理解している。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第1節 消費生活と市場経済 5	○身近な消費生活を中心に、経済活動の意義を理解する。  ○価格のはたらきに注目して、市場経済の基本的な考え方について理解する。	個人の消費生活に対する関心を高め、その特色や意義を意欲的に追究するとともに、今日の経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動についての考えを、さらに深めようとしている。	消費者は、自らの利益の擁護及び増進のために、自立した消費者となるよう努めなければならないことや、現在どのような消費者行政が行われているのかについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	個人の消費生活に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から、経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方などについての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	経済活動の意義が人間の生活の向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを理解し、その知識を身につけている。また、市場経済においては、企業や個人は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するか選択していることを理解するとともに、価格には資源を効率よく配分するはたらきがあることを理解している。	
	<b>●各単元の評価基準</b>						
	①家計とはなんだろう 1	○家計の果たす役割を、財やサービスの供給と、消費や貯蓄との関わりから理解する。  ○支払いにはさまざまな手段があることをふまえながら、消費の内容を正しく選択することの意義について考える。	家計が果たす役割について、財やサービスの供給や、消費や貯蓄との関わりから考えようとしている。	家計における消費の内訳の推移から、家計の消費活動がどのように変化してきているかについて、社会の様子と関連づけながら考察し、説明している。	貯蓄の内訳とその主な目的に関する資料などから情報を収集し、貯蓄が果たす役割を読み取っている。	クレジットカードや電子マネーなど、支払いにはさまざまな手段があることや、貯蓄の意義、商品の選択のあり方などについて理解し、その知識を身につけている。	
	②消費者を守るもの、支えるもの 1	○経済活動を支えるものとして、信用が大切であることに気づき、消費者の安全や権利を守るために、さまざまな法律や制度が定められていることを理解する。  ○消費者問題に取り組むさまざまな消費者行政が進められていることをふまえ、消費者の自立における契約の意味を考える。	悪質商法など、消費者問題に関する社会のさまざまな具体例をもとに、消費者の安全と権利、さらに責任について進んで学ぼうとしている。	消費者の四つの権利、消費者基本法、消費者庁設立など、消費者を守る法律や制度に対する取り組みの背景に、どのような問題があるのかを考察し、自分なりに説明している。	訪問販売やクーリング・オフ制度などに関するさまざまな資料を収集し、クーリング・オフに必要な諸条件をまとめている。	消費者は売り手より財やサービスの情報が限られるため、消費者の安全や権利を守る法律や制度があることを理解し、自立した消費者として契約を守る責任が求められていることを理解している。	
③生産と消費をつなぐもの 1	○流通のしくみを理解し、自分たちの生活と流通との関わりに気づく。  ○流通機構の変化と発展における長所と短所をとらえ、自分たちの生活への影響を考える。	日常生活でよく使う商品が、生産から消費者の手元に届くまでのような経路をたどるかについて、考えようとしている。	オンライン・ショッピングなどの増加や流通経路の変化が、消費者や経済に及ぼす影響を考察し、その長所と短所について説明している。	GPSによる輸送管理システムやPOSシステムなど、流通経路に関するさまざまな資料を収集し、流通機構が多様化していることを読み取っている。	生産された商品が消費者の手元に届くまでの流通経路や、さまざまな流通のしくみについて理解し、その知識を身につけている。		
④ものの価格の決まり方 1	○市場における商品の価格の決まり方について、身近な生活の中から具体的に考える。  ○需要と供給と価格の関係について考え、市場経済のしくみを理解する。	身近な財やサービスの価格の決定の仕方と、需要と供給と価格の関係について関心を高め、市場メカニズムや市場経済について考えようとしている。	需要量と供給量の関係や、市場価格を均衡価格へと導く市場メカニズムによる価格決定のしくみについて考察し、その過程や結果を説明している。	需要と供給曲線のグラフから、需要量と供給量のそれぞれの意味や、その関係によって均衡価格が決まることを読み取っている。	原価や経費、利益をふまえ、需要と供給の関係から決まる価格と、市場メカニズムのしくみについて理解し、その知識を身につけている。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第4章 私たちの暮らしと経済	⑤価格のもつ意味 1	○主な価格の種類をふまえながら、競争の役割を通して、市場が機能するために必要な条件を考える。 ○財やサービスの種類によっては、市場に適さないものがある理由を考える。	市場が機能するための条件や、財やサービスの種類によっては市場に適さないものがある理由について関心を高め、考えようとしている。	市場メカニズムが効率的にはたらくためには、どのような条件や制度が必要かを考察し、説明している。	身のまわりにある商品のうち、生産や販売サービスが集中して寡占状態にある商品に関する情報を収集し、まとめている。	市場メカニズムが効率的に機能するために必要な法や制度の意義や、公共料金に公平な供給が求められる理由について理解し、その知識を身につけている。	
	☆読んで深く考えよう 需要曲線と供給曲線ってなんだろう (1)	○需要曲線と供給曲線が、それぞれどのようなことを表現しているのかを考える。	社会全体の商品に対する需要曲線と供給曲線の求め方について関心が高まり、均衡価格がもつ意味について考えようとしている。	需要曲線と供給曲線が表現していることを考察し、その過程や結果を自分の言葉で発表している。	資料から、社会全体の需要曲線と供給曲線の決まり方を読み取ったり、曲線の移動がさまざまなことを表現することを読み取ったりしている。	均衡価格は、需要と供給のさまざまな状況や変化に応じて変動することを理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第2節 生産のしくみと企業・金融 5	○現代の生産や金融などのしくみやはたらきを理解する。 ○社会における企業の役割と責任について考える。	経済の三主体の一つである「企業」の生産活動や、金融などに対する関心を高め、生産のしくみと企業の経済活動、金融機関の役割と社会的責任について、意欲的に追究しようとしている。	企業には、市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割があることや、金融の機能と意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、社会における企業や金融機関の役割と責任について、多面的・多角的に考察している。さらに、個人や企業の経済活動のあり方について、さまざまな立場から公正に判断している。	企業や金融機関の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	人々が求める財やサービスを作り出す生産は、企業を中心に行われていることや、金融には、家計の貯蓄などを企業の生産活動や人々の生活資金などとして円滑に循環させるはたらきがあることを理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
①生産活動をにんぎょう主体 1	○企業という経済主体の果たす役割を、生産のしくみや生産要素を通して理解する。 ○資本主義経済のしくみをふまえ、私企業と公企業がもつそれぞれの役割や違いについて理解する。	生産の意味と、企業の役割について関心を高め、なぜ企業には、私企業（民間企業）と公企業があるのかを考えようとしている。	資本主義のしくみや、私企業と公企業が存在する意味について考察し、自分の言葉で表現している。	企業の生産と販売活動により生まれた利益の行方や、資本主義経済のしくみなどを、資料や図から正しく読み取っている。	資本主義経済のもとにおける私企業と、利益の追求を目的としない公企業の役割の違いを理解している。		
②さまざまな企業 1	○私企業の中でも数多く存在する会社企業の種類と、株式会社のしくみについて理解する。 ○規模からみた企業の違いやそれぞれの特色を理解し、日本経済の実態や今後の課題について考える。	株式会社のしくみについて考えるとともに、大企業と中小企業の違いに着目し、中小企業が抱える課題の解決に向けて関心を高め、考察している。	株式会社がなぜ大規模な会社として運営できるのかを考察し、その特徴や課題などを自分なりに説明している。	株式会社のしくみや、日本における製造業の事業所規模別の特色などに関する情報を収集し、整理してまとめている。	会社企業の種類と株式会社のしくみや、大企業や中小企業の特色と課題について理解し、その知識を身につけている。		
③間接金融の代表、銀行 1	○金融機関の種類や役割について理解し、間接金融と直接金融の違いをとらえる。 ○銀行のさまざまな仕事と目的をふまえながら、日本銀行と一般の銀行との違いを理解する。	金融機関の種類や金融機関の果たす役割について関心を高め、間接金融と直接金融の違いについて考えようとしている。	間接金融と直接金融の違いについて考察し、自分の言葉で表現している。	日本銀行と一般の銀行における仕事や役割の違いについて、資料から正しく情報を読み取ってまとめている。	金融機関の種類や間接金融と直接金融のしくみ、さらに日本銀行の役割について理解し、その知識を身につけている。		
④直接金融の舞台 1	○株式市場のしくみを理解させ、そのはたらきや役割を考える。 ○株式市場において、投資が本来もつ意味と市場への影響について考える。	株式市場がもつ役割やしくみについて関心を高め、そのはたらきや社会全体への影響を考えようとしている。	株式市場での価格はどのように決まり、どのように機能しているのかについて考察している。	株式市場での株取引のしくみや株価変動について、資料やグラフから読み取ってまとめている。	株式市場のしくみやそのはたらき、投資の目的などについて理解し、正しくその知識を身につけている。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 私たちの暮らしと経済	⑤市場経済の中の社会的責任 1	○企業や金融機関がもつ社会的責任について、具体的に理解する。 ○最後の選択者として、自分たち消費者にも責任があることに気づき、市場経済との関わり方を考える。	企業や金融機関、消費者がもつ社会的責任について関心を高め、追究しようとしている。	具体的な事例をもとに、企業の社会的責任（CSR）の実態を知り、その意義や役割について考察している。	企業や金融機関、消費者として果たすべき責任について、情報を収集してまとめている。	企業の責任、金融機関の責任、消費者としての責任について理解を深め、その知識を身につけている。
	★言葉で伝え合おう 企業にこんなCSRを行ってほしい (1)	○CSR事業に積極的に取り組んでいる企業について調べ、まとめた内容を発表したり新たな提案を行ったりするポスターセッションを通じて、企業の社会的責任へのより深い理解と、プレゼンテーション能力を育成することができる。	社会的な課題の解決に向けて、CSR事業に取り組んでいる企業の活動について、関心をもって調べようとしている。	さまざまな企業の中から、興味のある企業のCSR事業を取り上げ、社会的な課題の解決に向けてどのような活動を行っているのかを、自分の言葉でわかりやすく表現している。	CSR事業に取り組む企業がどのような活動を行っているかについて、さまざまな手段を活用して情報を収集し、まとめている。	企業がCSR事業に取り組むようになってきている背景について理解を深め、その知識を身につけている。
<b>●節の評価規準</b>						
	第3節 財政と政府の役割 4	○国民の生活と福祉の向上を図るために、財政として、国や地方公共団体が果たしている役割について考える。 ○財源の確保と配分という観点から財源の役割について考え、その際、租税の意義と役割について考えるとともに、国民の納税の義務について理解する。	国や地方公共団体における政府の経済活動を表す「財政」について、さまざまなはたらきや第三の経済主体としての機能に対する関心を高め、そのしくみや特色について意欲的に追究しようとしている。	租税を納める意義やはたらきを理解し、政府の経済活動における租税に関連したさまざまな問題点や課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国や地方公共団体の財政の現状や、歳入や歳出を基盤とした経済活動に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から、政府が現在抱える課題とその取り組みについて理解を深めるのに役立つ情報を適切に選択し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	経済の成長と安定の意味や、経済の安定のために国や中央銀行が行っている経済政策についての理解を深め、自分たちの生活との関連を考慮しながら、今後の日本の経済において政府に求められることを、これまでの財政に関する学習をふまえて理解し、その知識を身につけている。
<b>●各単元の評価規準</b>						
	①財政が果たす三つの役割 1	○第三の経済主体として、政府の経済活動を表す財政について、そのしくみを理解する。 ○資源配分、所得の再分配、経済の安定化という財政の三つの役割を、具体的にとらえる。	第三の経済主体である、政府の経済活動を表す財政について関心を高め、そのしくみについて考えようとしている。	政府の経済活動を表す財政のしくみや三つの役割について、考察したことを説明している。	日本の所得格差の変化や、諸外国と比較した日本の財政の課題などについて、集めた情報から適切に読み取っている。	資源配分、所得の再分配、経済の安定化という財政の三つの役割を具体的に理解し、その知識を身につけている。
	②税金を納めること 1	○税金の種類とそれぞれの特徴について、身近な暮らしの中から具体的に理解する。 ○租税には効率性と公平性の問題があることに気づき、納税の意義について考える。	税金の種類とそれぞれの特徴について関心を高め、身近な暮らしと関連づけて考えようとしている。	租税を納める意味と租税に関わる問題点や課題について、効率性と公平性の視点から考察し、自分の言葉で適切に表現している。	主な国の国税と地方税の比率や、直接税と間接税の比率について資料から読み取り、日本の租税の特色や各国との相違点をとらえている。	国税と地方税、直接税と間接税、累進課税など、税金の種類や特徴などについて理解を深め、その知識を身につけている。
	③税金の行方と国の借金 1	○政府の収入（財源）と支出の内容や、特徴について理解する。 ○財政赤字など政府が抱える課題とその取り組みについて理解し、今後の財政のあり方を考える。	政府の収入である歳入、支出である歳出の内容や財政赤字など、政府が抱える課題とその取り組みについて関心を高め、今後の財政のあり方について考えようとしている。	財政赤字の背景や、国債の発行残高が今後も増え続けていく場合に生じる問題点について考察し、その解決に向けた提案を自分の言葉で表現している。	国の歳入と歳出、地方財政の現状などから、税金の主な使われ方や国と地方の関連性などについて読み取っている。	政府の歳入と歳出の内容や、国と地方の財政における関連、国債残高が増え続ける背景やその解消のための取り組みについて理解し、その知識を身につけている。
	④経済政策が目ざすもの 1	○経済の成長と安定のしくみや、自分たちの生活との関連を理解する。 ○経済の安定のために、政府や日本銀行が行う経済政策について理解し、どのように行われるべきかを考える。	日本の経済成長率やGDPの変化などについて関心を高め、自分の生活との関連性を見いだそうとしている。	好況や不況、インフレーションやデフレーションなどが国民に与える影響や、そのために行われる経済政策について考察し、考えたことを自分の言葉で表現している。	財政政策のしくみや金融政策に関わる資料などから、政府や日本銀行による経済政策の内容について読み取っている。	好況や不況、インフレーションやデフレーションの際の自分たちの生活への影響や、政府の財政政策、中央銀行（日本銀行）の金融政策について理解し、その知識を身につけている。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第5章 安心して暮らせる社会	◇はじめに 社会の中で働くということ 1	○社会の中で自分が働くことの意義と、国全体の経済活動との関連について考える。	社会の中で働くということの意義や役割について関心を高め、考えを深めようとしている。	自分が将来働くことについて具体的に考え、それが社会の中でどのような意味をもつのかについて多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。	社会の中で働く人たちの具体的な資料から、働くことの意義を読み取っている。	自分にとって働くことの意味を考えるためのさまざまな資料の内容を理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第1節 労働と社会保障 5	○社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連づけて考える。 ○国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、社会保障の充実など、財政として国や地方公共団体が果たしている役割について考える。	社会生活における職業の意義と役割、及び雇用と労働条件の改善の問題に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。また、国民の生活と福祉の向上を図るために、財政として国や地方公共団体が行っている政策に対する関心を高め、さまざまな課題に着目し、その解決について考えようとしている。	職業には、個人の個性を生かすとともに、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支える意義があることや、労働条件の改善が家計の維持・向上につながることに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色をふまえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や解決策について、レポートの作成などを通して自分の言葉で説明している。	将来の充実した社会保障の実現を考えるために、財源の確保と配分の問題などに関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	社会資本が多くの経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として、間接的に経済の発展に役立つことや、日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解するとともに、今後一層の充実を図る必要があることを理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
	①働く人たちのいま 1	○働くことの目的や、働く人たちを取り巻く日本社会の現状と課題について理解する。 ○労働三法をはじめ、働く人たちの権利がどのように守られているかを理解する。	働く人を取り巻く現状や、雇用と国の失業対策について、意欲的に追究しようとしている。	働く人を取り巻く現状を具体的に考察し、現在の日本が抱える労働に関する課題や取り組みについて説明している。	失業率の推移や労働組合の組織率などの図やグラフから、労働に関する課題や問題点に関する情報を読み取っている。	働く人たちの権利がどのような法律や制度によって守られているか理解し、その知識を身につけている。	
	②安心して働ける社会 1	○労働環境の変化と、深刻化するさまざまな課題をとらえる。 ○女性や非正規社員の人たちが抱える労働問題をふまえ、安心して働くことができる社会のあり方について考える。	日本の労働環境が大きく変化してきている背景や、それに伴うさまざまな課題について、関心を高めている。	女性の労働をめぐる問題点や、「ワーク・ライフ・バランス」「ワーク・シェアリング」など、労働に関わる新しいしくみや制度について考察を深めている。	さまざまな資料から、日本の労働環境の特色や課題に関する情報を選択し、正しく読み取っている。	現在の労働環境の変化の背景や、女性や非正規社員の人たちが抱える労働問題について理解し、安心して働くことができる社会のあり方に気づいている。	
	③互いに助け合う社会 1	○日本の社会保障制度の目的と、そのしくみや特徴を理解する。 ○現在の社会保障制度が抱える課題をふまえながら、今後の社会保障にどのような考え方が必要かを考える。	日本の社会保障制度の目的と、そのしくみや特徴について関心を高め、社会保障制度の果たす役割や今後の課題について考えようとしている。	日本の社会保障制度が抱える課題をもとに、今後の社会保障のあり方について考察し、自分の言葉で表現している。	収集した資料の中から、社会保障制度の主な内容と特徴、社会保障費の推移や内訳などに関する情報を選択し、読み取ってまとめている。	国民一人一人がもつ「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」の保障のために、社会保障制度の内容とそれが果たすべき役割について理解を深め、その知識を身につけている。	
	④社会保障の充実のために 1	○少子高齢社会の中で、社会保障制度が抱える課題を具体的に理解する。 ○介護保険や年金保険などの給付と負担の関係について理解し、これからの社会保障制度を支えていくために必要なことを考える。	少子高齢化が進む中で、社会保障制度が抱える課題について関心を高め、将来の自分の生活に及ぼす影響について、具体的に考えようとしている。	少子高齢化が進む中で、これからの社会保障制度を支えていくために必要なことについて考えを深め、自分の言葉で説明している。	社会保障の給付と国民負担の国際比較に関する資料から、日本の社会保障制度の特色を読み取っている。	国民が安心して生活するためには社会保障制度が必要であり、それを支える国民の合意と財源を、社会全体で公平に負担するしくみの意義について理解している。	
	⑤暮らしやすいまちづくりへ 1	○社会資本や公共サービスについて具体的に理解し、社会資本の充実のためにどのようなことが大切なのかを考える。 ○協働という考え方や、その取り組みが意味するものとは何かを理解する。	社会資本や公共サービスについて関心を高め、身のまわりの社会資本や公共サービスの充実や、「協働」の取り組みの大切さについて意欲的に追究している。	誰もが暮らしやすく豊かなまちをつくるために必要なことについて考え、自分の言葉で表現している。	収集した資料の中から、日本と諸外国の社会資本と公共サービスの整備に関する情報を選択し、日本に不足している社会資本について読み取っている。	社会資本や公共サービスについて理解を深め、誰もが暮らしやすいまちづくりのためには社会資本の充実が大切であることや、「協働」の取り組みの意義に気づいている。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第5章 安心して暮らせる社会	★言葉で伝え合おう 福祉の課題を追究しよう  (1)	○福祉に関連する課題の中から、テーマを決めてレポートを作成させる活動を通して、福祉の課題に対する理解を深め、レポート作成能力をさらに育成することができる。	福祉に関連する課題の中から、自分の興味・関心のあるテーマを設定し、調査活動に取り組んでいる。	自分が興味・関心をもった福祉に関連するテーマについて、調査した内容をさまざまな視点から考察し、レポートにまとめて効果的に表現している。	調査した結果を図表やグラフにまとめ、発表用の資料として作成することができる。	福祉に関連する課題の調査や追究を通して、日本の福祉制度や身近な福祉問題、今後のあり方について理解を深めている。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第2節 これからの日本経済の課題  3	○公害の防止など環境の保全についての問題、グローバル化する国際社会における日本、地域経済の活性化など、今後の日本経済が直面する課題をとらえる。  ○今後の日本経済が抱える課題をどのように解決していけばよいかについて、意欲的に追究している。	環境保全の問題、グローバル化する国際社会における日本、地域経済の活性化など、これからの日本経済の課題に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、課題の解決に向けた取り組みを考えようとする。	環境保全の問題、グローバル化する国際社会における日本、地域経済の活性化など、これからの日本経済の課題とそれにむけた国や地方自治体の取り組みについて、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しようとしている。	公害の防止などの環境保全の問題、国際社会における日本経済のあり方、新たなビジネスモデルを地域経済から見いだす試みなど、これからの日本経済の課題とその解決に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	個人の生活や産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解するとともに、環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようになることの重要性を理解し、その知識を身につけている。また、グローバル化が進む国際社会において、日本の貿易のこれまでのあり方や現在の状況をとらえ、日本経済のこれからのあり方や課題の解決に向けて必要となる知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
	①循環型社会に向けて  1	○公害問題への理解を通して、環境保全への取り組みが進められてきたこれまでの歴史や、現在の状況をとらえる。  ○排出ごみの問題解決や、企業・行政・住民による協働が循環型社会の実現のために求められていることを理解し、環境問題への取り組みの重要性に気づく。	公害問題の発生とその後の環境保全への取り組みや、循環型社会の実現のために個人や家庭でできることなどについて、関心をもって考えようとしている。	これからの循環型社会形成のために、企業・行政・住民がさらに協働して取り組むことの意味を考え、自分の言葉で表現している。	四大公害を中心とした公害問題の内容と、その後定められた環境を守るための法律や循環型社会への取り組みなどについて、適切に読み取っている。	四大公害をはじめとした公害問題の原因や被害などに理解を深め、人間らしく生活する権利のために法律や制度が整えられた背景を、知識として身につけている。	
②グローバル化する経済  1	○経済におけるグローバル化の進展によって、国際社会では何が起り、その結果日本にはどのような影響があったかをとらえる。  ○グローバル化する国際社会の中で、日本経済が抱える課題とその解決について考えを深める。	経済のグローバル化による長所と短所や日本への影響、今後の日本経済のあり方について関心を高め、意欲的に追究している。	日本経済が抱える課題とその解決方法について考察し、グローバル化する国際社会と関連づけて説明している。	日本経済の現状とグローバル化に関連するできごとについて、さまざまな資料を収集したり、読み取ったことを図表にまとめたりしている。	グローバル化が進む経済を効率と公正の観点をもって考察し、グローバル化による長所と短所について理解を深め、その知識を身につけている。		
③新たな日本経済のあり方  1	○日本の「ものづくり」の特徴や課題、地域ごとの格差解消に向けた取り組みなど、日本経済の現状をとらえる。  ○さまざまな地域の新しい試みの成果や課題をとらえ、これからの日本経済のあり方を考える。	日本のものづくりの現状とこれから、地域による経済格差と解消に向けた試みなど、日本経済が抱えるさまざまな課題と取り組みについて、関心を高め追究しようとしている。	具体的な事例をもとに、地域からの活性化の重要性に気づき、これまでの日本の産業構造の変化について、自分の言葉で表現することができる。	日本経済が抱えるさまざまな課題と、その解決に向けた取り組みに関する資料を収集し、適切に読み取っている。	日本経済が抱える課題の解決とともに、利益そのものよりも社会的問題の解決を目的に経済活動を行う事業や、新たな「豊かさ」の考え方に基づく取り組みが広がりつつあることを理解している。		
☆読んで深く考えよう 貿易とはなんだろう  (1)	○貿易のもつ利点、過去の日本の貿易のあり方や現在の状況、為替レートのしくみなどを理解しながら、貿易の意義と、国際社会における日本経済の課題を深く考える。	自由貿易と保護貿易、工業国と農業国、貿易摩擦など、貿易に関連するさまざまな課題や現状について、関心を高めている。	自由貿易と保護貿易の長所と短所、為替レートのしくみなどをもとに、貿易のあり方や日本経済の今後の課題を自分の言葉で表現している。	収集した資料の中から、貿易のあり方や日本経済の課題に関する情報を選択し、適切に読み取っている。	国際分業の考え方、自由貿易と保護貿易、貿易摩擦など、国際社会における日本経済の課題について理解を深め、その知識を身につけている。		



章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第6章 国際社会に生きる私たち	◇はじめに 国際社会の「理想と現実」  1	○日本が近隣諸国との間で抱えている課題をとらえ、国際社会が「理想と現実」の間で揺れ動いていることを理解する。  ○国際社会に存在するさまざまな課題を学び、その解決に向けて自分なりに取り組んでいくことの意義を考える。	日本や国際社会が抱えているさまざまな課題をもつ背景や、解決に向けて取り組むことの意義について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	日本が近隣諸国との間で抱える課題について、国際社会の「理想と現実」と関連づけながら考察を深めている。	さまざまな写真やグラフ資料などから、日本や国際社会が抱えている課題について調べ、読み取ったりまとめている。	日本や国際社会が抱えるさまざまな課題に気づき、国際社会の「理想と現実」や、課題の解決に向けた取り組みの意義を理解している。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第1節 国際社会と国家  6	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、各国が相互の主権を尊重し、各国が協力し合うことが大切であることを理解する。  ○国際協調のために、国際連合をはじめとする国際機構などが果たす役割が大切であることをふまえ、国際社会における我が国の役割について考える。	国際連合が成立した経緯や、役割としくみ、主な活動について意欲的に調べ、国際社会の平和と秩序を維持していくために、国際機構が果たしている役割の大切さについて考えようとする。また、NGOによる国際支援のあり方への関心を高め、よりよい社会を築いていくために民間でもできる国際支援の方法や課題について、考えを深めようとしている。	グローバル化する国際社会の中で、世界の平和の実現に向けて日本が果たすべき役割について、現在の日本の外交のあり方や抱えている課題をもとに、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国際社会におけるさまざまな地域統合の動きや、経済における連携を目的とした日本と他国との結びつきに関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	国際政治は、国際協調の観点にもとづいて国家間の対立の克服を試みるものであることを理解し、国際社会において、国家は原則的に平等の地位を与えられており、すべての国家の主権が相互に尊重されなければならないことを理解し、その知識を身につけている。	
	<b>●各単元の評価規準</b>						
①国際社会を構成する国家  1	○主権国家を基本単位として構成される国際社会の特色や、国家の主権が及ぶ範囲について理解する。  ○日本の領土をめぐる課題をとらえるとともに、国際社会の平和と秩序を維持していくために大切なことは何かを考える。	主権国家を基本単位として構成される国際社会の特色や、日本の領土をめぐる課題について追究しようとしている。	領土問題や国際紛争の解決と関連づけながら、国際社会の平和と秩序を維持していくことの大切さについて考察している。	さまざまな資料から、主権国家がもつ権利や国際法の特徴、日本の領土をめぐる課題に関わる情報を読み取っている。	主権国家を基本単位として構成される国際社会の特色や、国家の主権の及ぶ範囲とともに、国際社会の平和と秩序を維持していくことの大切さに気づいている。		
②互いに尊重し合う国家  1	○世界のどの主権国家にもある国旗と国歌の意義と、その役割を理解する。  ○国際社会の平和と秩序を維持していくために、国際法が果たしている役割と課題について考えを深める。	主権国家がもつ国旗と国歌の特色や、国際法の種類と役割について追究しようとしている。	主権国家がもつ国旗と国歌の意義や、国際社会の平和と秩序を維持していくために国際法が果たす役割について、国際社会の現状や課題などと関連づけながら考えている。	さまざまな資料から、国旗と国歌がもつ意義や国際法の特徴に関わる情報を読み取っている。	国旗と国歌のもつ意義や国際法の役割とともに、国際社会の平和と秩序を維持していくことの大切さに気づいている。		
③国際社会のまとめ役  1	○国際連合が成立した経緯としくみ、そのはたらきを理解し、国際機構の果たす役割の大切さに気づく。  ○平和維持活動（PKO）やさまざまな専門機関など、世界の平和や人々の暮らしの向上に努める国連の活動を理解する。	国際連合が成立した経緯としくみ、そのはたらきや、国際機構の果たす役割について追究しようとしている。	国際連合が果たす役割について、国際連合の目的やしくみと関連づけながら考察し、今後の日本の貢献のあり方について、自分の言葉で表現している。	さまざまな資料やしくみ図、解説文などから、国際連合の目的やしくみ、はたらきについてまとめている。	国際連合が成立した経緯としくみ、そのはたらきを理解し、世界の平和や人々の暮らしの向上など、国際機構の果たす役割の大切さに気づいている。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第6章 国際社会に生きる私たち	④結びつきを強める国際社会 1	○ EU, ASEAN, APECなどを例に、国際社会における地域統合についての理解を深め、日本との関わりについて考える。  ○日本が結んでいる経済連携協定について調べ、その効果や日本への影響を考える。	国際社会における地域統合について追究し、日本との関わりや、日本が進めている協定のあり方について考えようとしている。	地域統合のもつ利点と課題について、日本と他国との結びつきと関連づけながら考察している。	さまざまな資料から、EU, ASEAN, APECなどの地域統合の目的やしくみを調べ、まとめている。	国際社会における地域統合や、日本と他国との結びつきの効果や影響などについて理解している。	
	☆読んで深く考えよう 日本の外交のいま (1)	○日本の外交の基本的な考え方、北朝鮮との日本人拉致問題及び国交正常化問題、北方領土問題について、それぞれの現状と課題、今後の交渉のあり方を考えながら、日本の外交の現在と今後について深く考える。	日本外交の基本的な考え方、北朝鮮との日本人拉致問題及び国交正常化問題、北方領土問題について、それぞれの現状と課題、今後の外交のあり方について意欲的に追究しようとしている。	日本外交の基本的な考え方、北朝鮮との日本人拉致問題及び国交正常化問題、北方領土問題における今後の外交のあり方について、それぞれの現状や課題から、自らの考えを深めている。	新聞記事などから、日本の外交の現状、北朝鮮との日本人拉致問題及び国交正常化問題、北方領土問題の現状と課題について調べ、情報を収集している。	日本外交の基本的な考え方、北朝鮮との日本人拉致問題及び国交正常化問題、北方領土問題について、それぞれの現状と課題について理解し、今後の外交のあり方について考えていくことの大切さに気づいている。	
	⑤世界の一員として 1	○日本の国際貢献のあり方について、平和主義を貫くという視点からとらえ、今後も期待される活動を考える。  ○アジアにおける日本の国際貢献について、技術協力や経済援助の視点から考える。	日本の国際貢献のあり方について、平和主義を貫くという視点から追究し、アジアを中心とした国際社会の中で、今後も期待される活動を考えようとしている。	平和主義を貫くという視点に立ち、アジアを中心とした国際社会の中で日本が期待される役割について、考えたことを発表している。	さまざまな資料から、日本がこれまでに行ってきた国際貢献について調べ、その活動内容についてまとめている。	国際社会において、日本は平和主義を貫くという立場から、今後も積極的な国際貢献を行っていく必要があるということを理解し、その知識を身につけている。	
	⑥民間から始める国際支援 1	○NGOによる国際支援活動の具体例を通して、民間でもできる国際支援の方法や特徴について考える。  ○さまざまな団体や個人と連携することなどによって生まれる、自分たちにもできる行動のあり方を具体的に考える。	NGOによる国際支援活動の内容を通して、民間でもできる国際支援の方法とその特徴や、自分たちにもできる行動のあり方を、具体的に考えようとしている。	NGOによる国際貢献の長所と短所を考察したうえで、民間にもできる国際支援の方法について、自分の言葉で表現している。	写真などの資料から、さまざまなNGOと市民団体などの活動や成果、課題についてまとめている。	さまざまなNGOと市民団体などによる活動や、自分たちの行動がもつ意味に気づいている。	
	<b>●節の評価規準</b>						
	第2節 国際社会が抱える課題 4	○地域紛争とその背景にあるものとして考えられる文化・宗教の違い、格差と貧困、資源・エネルギー、地球環境問題など、現在の国際社会が抱えるさまざまな課題を理解する。  ○現在の国際社会が抱えるさまざまな課題の解決のために、経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。	地域紛争、文化・宗教の違い、格差と貧困、資源・エネルギー、地球環境問題など、現在の国際社会が抱えるさまざまな課題に対して意欲的に追究し、課題の解決に向けた取り組みを考えようとする。	地域紛争とその背景にあると考えられる諸課題や、資源・エネルギー問題に関わる課題、ますます深刻化する地球環境問題などについて、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、関連性や今後のあり方などを適切に表現している。	さまざまな情報手段を活用して収集した資料の中から、文化・宗教における課題と、その影響をふまえた地域紛争の問題や、そこで暮らす人々の安全保障の問題などについて、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	グローバル化が進む国際社会の中で、国家間の格差が進み、「人間の安全保障」という考え方が広がってきた現状をとらえ、国際的な協力関係の必要性が強まってきていることを理解している。また、世界の食糧と水の不足の現状と、それをめぐる世界の動きを理解し、身近な生活や今後の世界のあり方と関連づけて理解を深めている。	
<b>●各単元の評価規準</b>							
①終わらない地域紛争 1	○世界の地域紛争の現状を理解し、紛争が長引く原因や解決を妨げる課題について考える。  ○難民問題など紛争が及ぼす未解決の課題について、その原因を理解し、解決策について考える。	世界の地域紛争の現状や、紛争が長引く原因と解決を妨げる課題について、意欲的に追究しようとしている。	世界の地域紛争が長引く原因と解決を妨げる課題や、その解決策について考え、自分の言葉で説明している。	さまざまな写真やグラフなどから、世界の地域紛争の現状と、紛争が及ぼす未解決の課題について調べ、まとめている。	世界の地域紛争が及ぼす未解決の課題やその原因について理解し、解決策を考え続けていくことの大切さに気づいている。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第6章 国際社会に生きる私たち	②多様性の中で生きる 1	○世界のさまざまな文化や宗教が、人々に与える影響について理解を深める。  ○多様性を受け入れることが、社会にとってどのような意味をもつのかについて考える。	世界のさまざまな文化や宗教が人々に与える影響と、多様性を受け入れることが社会にとってもつ意味について、追究しようとしている。	世界のさまざまな文化や宗教が人々の暮らしに与える影響や、多様性を受け入れることの意味を考え、自分の言葉で表現している。	さまざまな文化や宗教に関わる資料を収集し、それぞれの考え方や習慣などの特徴と、多様性により生じた変化や発展、対立の事例について調べている。	世界のさまざまな文化や宗教が人々に与える影響や、多様性を受け入れることがもつ社会にとっての意味を理解している。
	③安全をおびやかすもの 1	○「人間の安全保障」という考え方の広がりに着目し、こうした考え方が注目されるようになった背景に気づく。  ○グローバル化が進む国際社会という広い視野から、南北問題や南南問題などの国家間の格差の現状と課題について考える。	「人間の安全保障」という考え方が注目されるようになった背景と、グローバル化が進む国際社会における国際的な協力関係のあり方について、考えようとしている。	グローバル化が進む国際社会における国際的な協力関係のあり方について、国家間の格差の現状と関連づけながら考察している。	さまざまな写真やデータをもとに、南北問題や南南問題などの国家間の格差の現状について調べている。	「人間の安全保障」という考え方が注目されるようになった背景とともに、国家間の格差の現状について理解し、国際的な協力関係のあり方について考えることの必要性に気づいている。
	④なくてはならない食糧と水 1	○「人間の安全保障」という視点から、食糧と水の不足を中心に、世界が抱える深刻な問題の原因や背景について考える。  ○水資源をめぐる起こっている世界の動きに気づき、自分たちの生活への影響やこれからの世界のあり方を考える。	世界の食糧と水の不足の現状やその原因と、水資源をめぐる世界の動きについて追究し、これからの世界のあり方について考えようとしている。	水資源をめぐるこれからの世界のあり方について、自分たちの生活に与える影響や世界の動きと関連づけながら考え、自分の言葉で表現している。	さまざまな資料から、世界の食糧と水の不足の現状や、その原因と課題などについて調べ、まとめている。	世界の食糧と水の不足の現状やその原因と、水資源をめぐる世界の動きを理解し、これからの世界のあり方について考えることの必要性に気づいている。
	⑤これからの資源とエネルギー 1	○限りある資源と新しいエネルギーに関して、それぞれの現状と今後の課題を理解する。  ○資源やエネルギーを安全で持続可能な手段によって利用していく方法について、自分たちの暮らしと関わらせて考える。	資源やエネルギーを安全で持続可能な手段によって利用していく方法について、自分たちの暮らしと関連づけて考えようとしている。	資源とエネルギーに関わる今後の課題について、これまでに使われてきたエネルギーと新しいエネルギーの長所と短所をふまえながら考察している。	さまざまなグラフやデータをもとに、資源やエネルギーの利用が、自分たちの暮らしに及ぼす影響について調べている。	資源や新しいエネルギーについての現状を理解するとともに、今後は資源やエネルギーを安全で持続可能な方法で利用していくことが大切であることに気づいている。
	⑥「生命の星」を守るために 1	○地球温暖化をはじめとする、さまざまな地球環境問題の原因と現状に気づき、これまでの国際的な動きを整理してまとめることができる。  ○地球温暖化とその影響について理解するとともに、国によって地球環境問題への取り組みにはさまざまな立場や考え方があることを理解する。	地球温暖化の影響と、その解決に向けた国際的な取り組みにおけるさまざまな国の立場や考え方について、関心を高めている。	対立と合意、効率と公正の観点から、地球温暖化に対する国際的な取り組みのあり方について、さまざまな国の立場や考え方と関連づけながら考えている。	さまざまな資料から、地球環境問題の現状と原因、解決に向けた国際的な取り組みや国による考え方の違いなどを調べている。	地球温暖化の影響と、国際的な取り組みにおける、さまざまな国の立場や考え方の違いについて理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
終章 私たちにできること	<b>●節の評価規準</b>					
	第1節 持続可能な未来へ  5	○日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えるとともに、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。  ○持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求し、自分の考えをまとめることができる。	戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育て、人間の生命の尊さ、平和の尊さを考えようとしている。また、よりよい社会を築いていくために自分たちでもできる国際支援について、考えを深めようとしている。	社会科で習得した知識や技能に基づいて、持続可能な社会を形成するために解決すべき課題について、対立と合意、効率と公正などの視点から考察し、課題の探求の過程、思考の過程及び結果を適切に説明したり論述したりしている。	持続可能な社会を形成するために解決すべき課題に関する資料を、さまざまな情報手段を活用して収集し、収集した資料の中から、課題の探求に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本国憲法の平和主義に関する理解を深め、その知識を身につけている。また、世代間の公平、地域間の公平、環境の保全と回復、公正で平和な社会などが持続可能な社会形成への基礎となることを理解し、課題の探求については、課題の設定、資料の収集と読み取り、考察とまとめといった方法があることを理解し、その知識を身につけている。
	<b>●各単元の評価規準</b>					
	①持続可能な未来のために  1	○これまでの学習の集大成として、持続可能な未来のために「未来への私の約束」を作成するための準備をする。  ○さまざまな課題と関わる「本質的な問い」と向き合いながら、課題解決のための答えを探していくことの大切さに気づく。	「本質的な問い」と向き合いながら、持続可能性を妨げる課題の解決を図ることの意味について追究するとともに、「未来への私の約束」の作成に対する関心が高まっている。	「本質的な問い」と向き合いながら、「未来への私の約束」を作成する目的や意義について考えを深めている。	「地理」、「歴史」、「公民」のこれまでの学習を振り返り、持続可能性を妨げる課題について整理し、まとめている。	「未来への私の約束」の作成の目的や意義について理解し、「本質的な問い」と向き合いながら、課題解決のための答えを探していくことの大切さに気づいている。
②「未来への私の約束」をつくろう  2	○資料収集や個人テーマを追究する手順を考える。  ○追究する個人テーマと、持続可能性を妨げる課題との関わりについて理解し、手順にそって作成する。	個人テーマを追究するための方法や、持続可能性を妨げる課題の解決に対する意識が高まっている。	持続可能性を妨げる課題の中から、自分にとって最も切実だと思う個人テーマを考えている。	テーマに関わる資料を収集し、自分の考えの根拠となる情報を読み取ったうえで、見出しや図、グラフなどの効果的なレイアウトを工夫しながら、「未来への私の約束」をまとめている。	個人テーマに関わるさまざまな知識を身につけ、課題の解決を図ることの大切さに気づいている。	
③持続可能な未来への行動  2	○完成した「未来への私の約束」を相互に発表し合い、他者との対話を通してさらに改善することができる。  ○卒業後も、「ともに生きる社会」の実現に向けて、「未来への私の約束」を生かして行動し続けていくことの大切さに気づく。	「未来への私の約束」について、他者との対話を通してさらに改善を図りながら、それを生かして行動し続けていくことに対する意識が高まっている。	他者との対話を通して、「未来への私の約束」を多角的・多面的に考察し、地球規模の持続可能な未来への行動の輪を広げていくために大切なことを考えている。	他者との対話や、他者が作った作品から、自分の「未来への私の約束」の改善に関わる必要な情報を読み取っている。	「未来への私の約束」を生かして行動し続けるとともに、地球規模の持続可能な未来への行動の輪を広げていくことの大切さに気づいている。	

\*総配当時数の100時間に対し、「本時」の配当時数の合計は84時間です。残りの16時間は、「言葉で伝え合おう」・「読んで深く考えよう」(10～12時間)と、「学習のまとめと表現」(4～6時間)などを弾力的に配当して、設定してください。